課題番号30

深川市における稲WCSの生産支援

～　自給飼料の確保と新たな水田輪作体系に向けて　～

深川市稲WCS栽培農業者（２１戸）

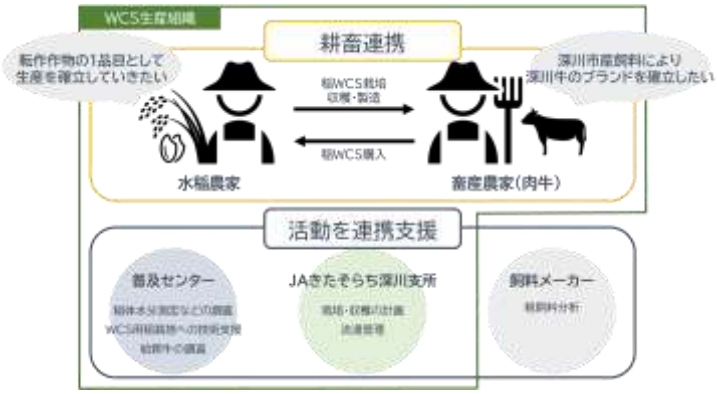
１　活動の背景

■ 水田活用の直接支払交付金の拡充・見直しに伴い、交付対象水田の方針が示された。

■ 飼料費が高騰する中、畜産農家では「自給飼料の確保」が課題となっている。

■ 当地区では、「稲WCSの導入」について畜産農業者と水稲作付者、JA、普及センターが協議し、推進していくことを確認、令和4年度より活動を開始した。

○ **具体的推進事項：収量向上技術取組農家戸数　0戸→3戸**



２　活動の経過

■ 生育調査（R7.7～8）

生育期節（幼穂形成期、出穂期）を確認し、収穫時期の目安を伝えた

■ 収穫時水分調査（R7.7～8）

収穫前の水分調査を実施

■ R7産稲WCS使用状況聞き取り（R8.1）

・畜産主査と連携し、深川市肉牛組合へ使用状況を確認
・給餌時の問題点や求める品質について確認

■ 反省会・栽培講習会（R8.2）

大規模に作付している2法人を対象に育苗講習会等を開催

■ 堆肥施用試験の実施（深川市農業センター）

畜産主査と連携し、深川市農業センター試験ほ場にて堆肥等施用時の生育経過を確認した

写真1　畜産農家巡回

写真2　生育確認

3　成果の具体的内容

収量向上技術取組農家戸数　0戸 → 2戸（66%）

① 乾田直播栽培

写真４～６　乾田直播生育の様子

■ は種前後の鎮圧作業が不十分であったことから出芽に時間を要した

■ 出芽までの水管理を重点的に指導したところ**苗立本数は十分に確保された**

■ 除草対策に苦慮し、雑草が多発したことから収量は少なくなった

② 移植栽培

写真７　巡回の様子

写真８　ほ場の様子

図１　低コスト肥料試験結果（R7）

■ 低コスト肥料施用試験の結果、慣行以上の生育を確保することができた（図1）

■ 移植後の適正な水管理を実施したことから収量はR6より向上した（106%）

③ 堆肥施用試験結果

■ 初期生育は鶏ふん区が良好であった

■ 稲WCS収穫時期（7月）の生育及び乾物重の両方を勘案すると、堆肥秋施用が良好であった

■ 堆肥施用（1t/10a）による生育への効果を確認できた（図2）

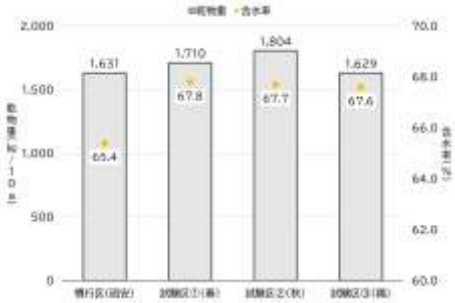


図２　堆肥施用試験結果（R7）

4　今後の課題と対応

① 重点プロジェクト化

作付面積の拡大及び今後も需要の拡大が見込まれることから、より高品質で安定した稲WCS生産に向け支援していく

【作成者：空知農業改良普及センター北空知支所　専門普及指導員　山黒　彩菜】